

平成 31 年度（令和元年度）  
自己点検・評価書

佐賀大学  
アドミッションセンター

I. アドミッションセンターの目的と概要	3
----------------------	---

## II. 領域別評価（組織運営の領域）

観点①	4
観点②	8

## III 平成31年度アドミッションセンター報告書（添付資料）

## I アドミッションセンターの目的と概要

佐賀大学アドミッションセンター（以下、「センター」と略記）は、平成19年9月19日付のセンター要項に基づき同年10月1日に設置された。センター長（併任：1名）、専任教員（1名）及び特任講師（1名：平成28年度より着任）で構成される。センターの目的と業務内容は以下のとおりである。

**（新）**

### 【目的】

センターは、入学者選抜、入試広報、高大接続等に関する企画、立案等の業務を行うとともに、学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し、国立大学法人佐賀大学（以下「本学」という。）の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。

### 【業務】

1. 入学者選抜の制度、方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画、立案等に関すること
3. 高大接続、高大連携活動等の企画、立案等に関すること
4. 入学者選抜等に係る調査研究に関すること
5. その他入学者選抜に関すること

（国立大学法人佐賀大学アドミッションセンター規則より抜粋）

センターで実施した調査・研究および活動記録は、年度末に「アドミッションセンター報告書」にまとめられる。本自己点検・評価書では、「平成31年度アドミッションセンター報告書」（添付資料）を根拠資料とし、点検および評価を行う。以下、同報告書は、「報告書」と略記する。

## Ⅱ 領域別評価（組織運営の領域）

【観点①】 アドミッションセンターの業務が十分に遂行されているか。

観点①-1 入学者選抜の制度，方法等の設計に関する支援が十分に遂行されているか。

（観点に係る状況）

### ■ 佐賀大学版 C B T の開発と実施

佐賀大学版 CBT のタイプの 1 つとして、「基礎学力・学習力テスト」に改善を加え，理工学部及び農学部の推薦入試 I において 3 年目の実施をした。また，教育学部の英語分野の AO 入試 I において英語のスピーキングとリスニングの評価するテスト，理工学部化学分野において，実験の映像をもとに観察に基づく思考力等を評価するテスト，農学部の国際・地域マネジメントコースの AO 入試 I において英語の動画を材料としたテストは 2 年目の実施となった。さらに，試験結果を検証するための分析ツールを強化し，次年度以降の試験作成に生かせるように改善した。さらに，経済学部の推薦入試，芸術地域デザイン学部の医学部（看護学科）の編入学試験において CBT を導入することを決定し，公表した。

### ■ 特色加点制度の導入

医学部を除くすべての学部的一般入試において，2021 年度入試より特色加点制度を導入することを決定し，公表した。これにより，全学部，全入試区分における多面的・総合的評価を実現し，中期計画を達成することができた。

### ■ 電子書類審査システムの運用と機能強化

特色加点制度を円滑に実施する電子書類審査システム（J-Bridge System）を 2019 年度入試から運用している。昨年度入試の改善点を踏まえ，2020 年度入試に向けて改善した。また，理工学部と農学部では，AO 入試 I にも利用を拡大した。一方，「文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業主体性等分野実証事業」の協力大学として大学改革の推進に貢献した。加えて，書類審査の自動採点や類似申請チェック等が将来的に実施できるかを検証するための技術調査を実施した。

### ■ 「九州地区国立大学アドミッション研究会」の実施

九州地区の国立大学のアドミッション部門の関係者が集う「九州地区国立大学アドミッション研究会」を全国大学入学者選抜研究連絡協議会に合わせて開催し，各大学と高大接続改革に向けた意見交換を行った。

### ■ 英語外部検定試験の改善

2021 年度入試の英語外部検定試験利用制度が見送られたことにより，従来から実施している本学独自の英語外部検定試験の活用を継続することを決定した。

(分析結果とその根拠)

佐賀大学版 C B T の 3 タイプの試験が着実に実施されている。これに加え、経済学部推薦入試、芸術地域デザイン学部の医学部(看護学科)の編入学試験において C B T を新たに導入することが決定され、すべての学部において C B T が実施されることになった。一方で、昨年度の課題として挙げられた「C B T 導入の検証等が必要となる」に対応するために、試験結果の分析ツールを新たに作成することによって、試験問題の質を高めるための環境が整いつつある。

以上のことから、入学者選抜の制度、方法等の設計に関する支援は十分に遂行していると判断できる。今後は、C B T の新たな展開なども含めて検討することが期待される。

観点①-2 入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されているか。

(観点に係る状況)

■ 各種説明会等の実施

受験産業等が主催する進学説明会(「報告書」pp.238-239)

高校や予備校等で実施する大学説明会(「報告書」p.240)

高校からの大学訪問において実施する説明会(「報告書」p.241)

九州地区国立大学合同説明会(「報告書」p.242)

高校教員対象の入試説明会(「報告書」p.185-191)

■ オープンキャンパスの企画・実施(「報告書」pp.243)

■ 佐賀大学案内冊子の編集(「報告書」p.243)

■ 入試直前説明会(「報告書」p.243)

■ ジョイントセミナーの管理・運営(「報告書」pp.244-245)

■ 継続・育成型の高大連携カリキュラムの開発・実施(「報告書」p.246)

■ きめ細やかな高校訪問(「報告書」pp.152-184)

(分析結果とその根拠)

高校生、保護者、高校教員等を対象とした積極的な対面形式の説明会の実施だけでなく、オープンキャンパスの内容の充実化を図ることで、参加者数の増加という結果をもたらしている。また、きめ細やかな高校訪問は、平成28年度より着任した特任講師により行われているもので、年間のべ284校という訪問により丁寧な広報と進路指導現場の最新の情報収集も行っている(前年度よりも総訪問総数は減っているが、前年度の反省にもとづき、佐賀県内の高校訪問を強化)。令和2年度入試においても十分な志願者を獲得した。一方、高大連携活動では、従来から実施してきたジョイントセミナーでは、のべ130名の教員を高校へ派遣し、高校生が高等教育へ触れる機会を十分に提供している。また、新たな高大連携活動の試みとして導入された継続・育成型の

高大連携カリキュラムでは、教育学部の「教師へのとびら」、理工学部と農学部の「科学へのとびら」、医学部の「医療人のとびら」経済学部の「社会へのとびら」に加え、芸術地域デザイン学部が企画する「アートへのとびら」を新たに実施した。

以上のことから、入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されていると判断できる。

### 観点①-3 入学者選抜に関する調査研究に関する業務が遂行されているか。

(観点に係る状況)

平成 31 年度は、以下の調査研究を行った（「報告書」を参照）。

- ① H31 年度一般入試における志願動向分析（入学試験委員会で報告）
- ② H31 年度一般入試結果の検証
- ③ H31 年度入学者アンケート調査実施・分析
- ④ H27 年度入学者の追跡調査
- ⑤ H31 年度オープンキャンパス参加者アンケート調査実施・分析
- ⑥ H31 年度ジョイントセミナーに関するアンケート調査実施・分析（受講者・高校教員向け）
- ⑦ 特色加点制度導入の検証
- ⑧ CBT 導入の検証
- ⑨ 英語外部検定試験の換算表見直しのための検証
- ⑩ 高等学校訪問調査

(分析結果とその根拠)

志願者動向やアンケート調査の分析および入試データ分析などを通して、客観的なデータに基づく議論を行うための資料の蓄積ができています。さらに、新たに導入した制度の検証なども精力的に行っている。以上のことから入学者選抜に関する調査研究に関する業務が十分に遂行できていると判断できる。

【観点②】 センターの組織運営が十分に行われているか。

(観点到に係わる状況)

運営委員会は、「(1) センターの管理運営の基本方針に関する事項」「(2) センターの教員の人事に関する事項」「(3) センターの予算及び決算に関する事項」「(4) 第14条に定める企画委員会が企画・立案し実施する事業等に関する事項」「(5) その他センターの管理運営に関する重要事項」に限定し、入学者選抜方法に関するもの、広報、高大接続、高大連携に関するものは各専門委員会で扱っている。平成31年度は、運営委員会が1回、入学者選抜方法等専門委員会が3回、広報・高大接続等専門委員会が3回実施された(「報告書」pp.248-249)。各委員会の構成メンバーは、「報告書」(p250)の通りである。これらの専門委員会の活動を通して、センターの業務が遂行されている。なお、センターの活動等に関するすべての事務は、学務部入試課が行っている。

**目的：**入学者選抜、入試広報、高大接続等に関する企画、立案等の業務を行うとともに、学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し、佐賀大学の教育研究の充実発展に寄与すること

**業務内容：**

1. 入学者選抜の制度、方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画、立案等に関すること
3. 高大接続、高大連携活動等の企画、立案等に関すること
4. その他入学者選抜に関すること

委員会名称	構成員
運営委員会	センター長、副センター長、専任教員、学部の入試委員
企画委員会	センター長、副センター長、専任教員、各学部の入試委員、入試課長
入学者選抜方法等専門委員会	センター長、副センター長、専任教員、各学部の入試委員、入試課長
広報・高大接続等専門委員会	センター長、副センター長、専任教員、各学部から選出された教員、入試課長

(分析結果とその根拠)

定期的かつ必要に応じて運営委員会および専門委員会を開催し、センターの業務を着実に実行していることから、組織運営が十分に行われていると判断できる。